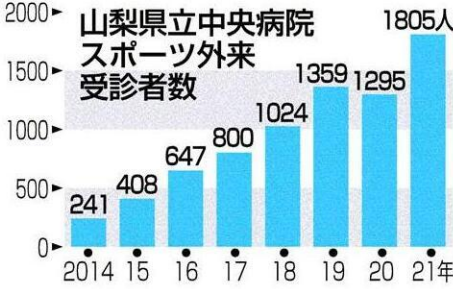




定月 亮
整形外科医長

リハビリテーション科部長の定月亮医師はヴァンフォーレ(VF)甲府のチームドクターを10年以上担当。スポーツ分野で培った経験を同院での

スポーツドクターはアスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるように医療面から支える欠かせない存在だ。県立中央病院整形外科医長・



VF甲府のチームドクター

培った経験を診療に反映

診療に取り入れ、患者のニーズに添えている。定月医師は甲府・羽黒小時代にはサッカーを始め、大学まで続けた。スポーツドクターを含めたコンディショニングを志す中、2011年にVFの調整に当たっている。試合

15年、都内の病院から県立

甲府のチームドクターに登録された、けがをした選手の治療やけがの予防、最近では新型コロナウイルス感染症対策を含めたコンディショニング

月医師は「治療によってコンディションを元に戻すだけでなく、今まで以上に高めることも考えている」と力を込める。

癒力を利用する再生医療で、肉離れや靭帯損傷などを起こした際、早期の復帰につながる治療としてアスリートの世界では浸透している。

定月医師は同院での導入に向けて準備を進め、19年に開始にこぎ着けた。保険適用とはならないが、症例や要望に応じて一般の患者にも実施。既に同院での実施は300件を数え、膝関節症や半月板損傷を患う高齢者らに手術以外の選択肢を提供している。

にも帯同し、選手が負傷すればピッチ上でプレーを継続できるか判断する役割も担う。17年にはチームのチーフドクターに就任した。アスリートの治療は通常の患者と異なるケースがあるという。復帰に時間がかかる手術を一時的に回避することもあれば、選手としての将来を見据えて日常生活に支障はない程度でも手術に踏み切ることもある。定

中央病院に着任し、スポーツ外来を担当している。県内の大学、高校の強豪運動部に所属する選手を含め、昨年は約1800人が受診。着任前の14年比で7・5倍となった。スポーツ選手の手術は年間50件に上る。

「体を資本とする選手と向き合うことで『より早く、より確実に治す』という意識が強くなった」と定月医師。「一般診療に還元できる治療はこれからも積極的に取り入れていきたい」と話している。

患者自身の血液に含まれる治療に活用している。その一つが「多血小板血漿」(PRP)療法。

Ⅱ第2、4木曜日に掲載します